

1 学校経営ビジョン

—目指す学校像—

生徒が生き生きと輝き、創意あふれる教育活動を展開し、
保護者・地域に開かれ信頼される学校

岸川中学校が、生徒一人一人にとって、毎日の学習や部活動、学年・学校行事等により学校生活が楽しいと感じられ、保護者にとって子どもを安心して預けられる学校であるとともに、地域にとって我が町の誇れる学校となるよう、全教職員の叡智と創意を結集し、それを活かした教育実践に努めていく。

創意あふれる教育活動

教職員全ての叡智を集めて・たゆまぬ研修・とどまることのない授業改善・自己研鑽（省庁・企業、大学等セミナー・研究会・講演会 等への積極的参加）

開かれ信頼される学校

コミュニティースクール制度の活用・来校者数の増(学校を知ってもらう)・PTA、保護者、地域との連携の強化・宣伝広告媒体としてのHPの活用 等

2 校訓

自主 → 自分で考えて行動する力

協同 → 仲間と協力し支え合う力

創造 → (人や社会のために貢献することを通して) 新しい自分と出会い未来を築く力

3 学校教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒
- (2) 思いやりのある生徒
- (3) たくましい生徒
- (4) 奉仕を尊ぶ生徒

【R3年度努力事項】

- ◆学力向上・体力向上（授業改善及び学習支援の充実）
 - ◆健全育成（積極的な生徒指導・教育相談体制の充実）
 - ◆地域貢献（ボランティア活動、地域人材の活用、小中連携）
- 基礎：一人一人を大切にした指導、授業規律の確立、社会規範の醸成
土台：協力し合い共に学ぶ教師集団、全員参画による全員経営
＜教職員事故、生徒事故のない信頼される学校＞

4 目指す生徒像

思いやりの心を持ち、人と地域に貢献できる岸川中生

自立した将来の担い手

- ①自分で考え行動することができる生徒
- ②仲間と協力し支え合うことができる生徒
- ③人や社会のために貢献できる生徒

『ボランティア活動の推進』

き 気持ちよい挨拶
し 自主的に
か かつこよく
わ 私がやります ボランティア

5 目指す教職員像

教育公務員としての使命感を持ち、生徒に対する教育的愛情に溢れ、豊かな教養と専門的知識の向上に努める教職員

- (1) 生徒の「学ぶ意欲(生きる意欲)」を引き出す教職員
- (2) 生徒の「人間性(人としての真心)」を育む教職員
- (3) 生徒の「社会性(他者に対する配慮)」を養う教職員
- (4) 生徒の「規範(人としての物差し)」を確立する教職員
- (5) 生徒の「資質の芽(人間としての力)」を認め、伸ばす教職員

6 指導の重点・努力点

(1) 学習指導の充実(教員のスキルアップ)

- ①岸川中の授業は、「できる(わかる)、伸びる、好きになる」授業を実践する。
 - ・基礎学力が定着していない生徒層への対策に注力する。
 - ・本時のねらい、まとめの板書の徹底、+本時(本単元)の評価
- ②学力の向上に努め、ICT活用を積極的に行い、学び方を学べる力の育成をする。
 - ・eラーニング、コバトン問題集の活用→教材予算の見直し、軽減→実力テスト
 - ・自習ができる環境の整備をする。
 - ・教科会の開催(相互授業見学 等)
 - ・全国、県の学力調査の活用する。
 - ・実力テストの2回実施(生徒の学力の伸びを把握する)
- ③道徳教育を充実させ、人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。
 - ・全教職員が道徳の授業を行う。(道徳への苦手意識の克服・評価)
- ④異校種・専門機関との連携を進める。
 - ・小学校との連携・高校との連携(持続可能な、継ぎ目のない)
 - ・知識構成型ジグソー法(CoREF ユニット)を活用した指導を充実させる。
 - ・思考力の育成(思考力を問う問作・指導)

■STEM教育、Liberal Arts 対策の検討に着手する

(2) 生徒指導・教育相談の充実

- ①組織的な生徒指導体制を確立し、教職員が一体となって取り組む。
 - ・学年内での伝達を徹底する。
 - ・欠席者向け封筒の準備(全教科担任の活用)
 - ・欠席者宅への連絡、家庭訪問等を組織で対応する。
 - ・小中連携教員を積極的に活用する。
- ②生徒理解を深め、一人一人を生かし、家庭・地域社会との連携を図り、心豊かな生徒の育成を図る。
 - ・地域貢献活動への積極的な参加
- ③基本的生活習慣を確立し「時を守り、場を清め 礼を正す」指導を徹底する。
 - ・生徒自らが判断を求められる場面の創設(自己責任の感覚を身につけさせる)
 - ・時：定時に授業を開始、終了(日課表時間 帰りの会、下校時刻 厳守)
 - ・場：清掃活動の徹底(床にごみが落ちていない、物を置かない、ごみ拾い)
 - ・礼：あいさつ、感謝の言葉(ありがとうごめんなさい)→教師からあいさつ
- ④教育相談室・学区の小学校・市教育研究所芝園分室・関連機関と連携し、不登

校傾向や悩みを抱えている生徒のきめ細やかな個別指導を推進する。

⑤人権教育の推進・充実を図る。

- ・人権に係る事業への積極的参加⇒いじめ撲滅
- ・配慮を要する生徒の対応の仕方についての研修を充実させる。

⑥生徒が主体となったいじめ、不登校の予防・防止策を展開する。

- ・生徒会等生徒の活動の活用

(3) 豊かな心を育てる教育の推進(道徳教育+ライフスキルかわぐち)

①自らの生き方を考え、温かい心情と責任感を持ち、心豊かな生徒の育成に努める。

②思いやりの心や感謝の気持ちを持ち、責任感をもって協力し合う態度を育成する。

③自他の生命を尊重し、弱いものをいたわり、美しいものに感動する心を育てる。

④いじめを許さない態度を育成する。

⑤「生きる力を育むライフスキルかわぐち」を通して生きようとする力・生き抜く力を育成する。⇒困難を乗り越える力の基（一人じゃない・まちがえても良い・何度でもやり直せる・認め合う・助け合う・求めあう・寛容さ）⇒学級指導の基本的な部分と一緒にではないだろうか？

⑥ボランティア活動の継続

- ・地域の一員（地域の一員の集合体＝地域の学校）
- ・できることを、できるときに、できるだけ
- ・SDGs の考えを地域活動に生かす。

(4) 進路指導・キャリア教育の充実

①将来を見据え、自己の生き方を考える進路指導、生徒自ら目的を持った進路選択、自己実現への過程を大事にするきめ細やかな指導・支援に取り組む。

- ・自己選択、自己決定、自己責任の考え方を定着させる。
- ・機会を捉え、生徒一人一人が夢や希望を語る場の創設。

②生徒一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育に関して、地域人材の活用、職場体験などを通じて推進する。

- ・三年間を見通した指導の徹底（データ・資料は前年度の物をリメイク）
- ・進路データの蓄積と活用（高校や「塾」との連携行事等）

③進路指導の主導権を握るための、進路指導にかかるデータの分析、上級学校を教員が調べる。（選抜基準の読解 等）

- ・高等学校との連携の強化

④キャリアパスポートの導入と有効活用の研究

⑤高校生活の実態の講演会の実施 ⇒ 高校生活の困難さ、窮屈さ、忙しさ等

⑥学力の下位層の学力向上

(5) 健康の増進と体育的活動の充実

①学校保健委員会（地域含む）参加者の増員

②齲歯治療率の向上（部活動ごとの調査・休日増加）

③視覚矯正必要者の眼鏡使用率向上（部活動ごとの調査・休日増加）

④保健にかかるあらゆるデータを活用した指導を推進する

⑤体力や運動能力の実態を的確に把握し、計画的に体力・運動能力の向上に努める。

- ・新体力テスト C+D+E=3年男子 %以下 ・ 女子 %以下
- ・体力の見える化(数値化)し、生徒一人一人に具体的な数値目標を示す。
- ・体力の分析を生徒とともに共有する。

⑥食や環境、健康、子育てに関する教育を充実し、望ましい食習慣の形成を図る。

- ・カルチャー教室＊1との連携
- ⑦学びを止めない為の感染症等対策の強化(コロナウイルス、インフルエンザウイルス、ノロウイルス等対策)
- (6) 特別支援教育の充実・推進**
 - ①通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒への合理的配慮
 - ②特別支援学級に在籍する生徒への指導・支援の充実
 - ③交流及び共同学習の充実
 - ④校内及び関係諸機関(障害福祉課・特別支援学校・児童相談所・生活支援センター)との連携

(7) 部活動の適正な実践について

- ①ガイドラインをレギュレーションとして読み取る。ガイドラインの徹底
 - ・月～金 1日休み 2時間練習 土日 1日休み 3時間練習 ＊代休設定
 - ・オフシーズンは閉庁日とする。(お盆の時期・年末年始)
 ただし、全国大会出場チーム・個人はその限りではない。
 - ・**毎月20日のHPへの掲載**
 - ・中体連主催の大会でなくとも、土日の大会参加は可能
ただし、ガイドラインの趣旨に沿ったように参加する。
従って、土日参加した場合には、代休をとる
(できるだけ近いうちに・1週間以内に)
 - ・学校は一斉に部活動休養日を指定しない。(施設を効率的に使用するため)
ふれあいデー・リフレッシュデーは一斉に全員が取得し、部活動は一切行わない。(全国・関東出場等は別)
- ②保護者運営の会計の適切な執行 → 会計簿の提出(南部教育事務所 点検)
- ③事故防止 引率の厳格化・自転車使用時のヘルメット義務
- ④クラブチームとの明確な線引き
 - ・クラブチーム指導者となる場合は校長に申し出る。(収入の確認、保険の確認等)
 - ＊事故発生時の損害賠償の請求先は学校・市教育委員会ではない。指導者です。
- ⑤部活動の適正な数の調査に着手し、将来的に部活動数の増減の検討に着手する。

7 地域連携の継続(開かれた学校づくり)

- (1) 地域と連携したボランティア活動の継続
- (2) カルチャースクールの開催
 - ・学校公開日に合わせて、本校教職員、外部講師等の講演を実施
- (3) HP・メール等の活用
 - ・「紙」媒体の各種便りの廃止 → HPのみの掲載(?)
(町会等へは紙媒体で配布・目標年間訪問者数＝全校生徒数100%＊365日)
 - ・学校メールの登録者 目標100%
- (4) 周年行事準備委員会の発足
 - ・50周年記念式典準備委員会の発足(地域・PTAからの代表含む)

8 学校経営を円滑に行うために

- (1) 規約集の有効活用
 - ・諸会議に必携とする資料集としての規約集作成に着手する。
(記憶から記録の資料を作る)
- (2) 多忙化解消の推進
 - ①働き方改革委員会の設置
 - ・切り捨てる、継続するもの、新たに立ち上げるものの線引き・事業仕分け
 - ②学校としての 断・捨・離 の 「断行」
 - ③月45時間 OVER「0」の目標達成に向けて(適切な勤怠管理)

- ・打刻ちゃんの適切な実施。
- ・ふれあいデー・リフレッシュデーの完全実施（定時消灯・退勤）

(3) 校務分掌組織の見直しの着手

- ・効率的な組織の在り方検討
- ・多様な分掌を経験する → 人材育成
- ・生徒数減少(教員数減少)に備えた組織作りの準備

9 事故防止に向けて（教職員事故・学校事故）

(1) 会計システムの改善

- ・教員が現金を扱わない方式の徹底
- ・教材費の内容の再検討(支払いの督促 減への工夫)

(2) 倫理確立委員会

- ・ボトムアップスタイルの研修の充実

(3) 一人で学校に残らない

- ・最大(遅)で 21:00 まで
- ・最後の二人になったら、帰る時間を申し合わせ、一人で学校に残らない

(4) 綱紀粛正

- ・ビジネスフォーマルの着用

(5) 毎月の安全点検の徹底

- ・給与支給日(?)に実施 → 営繕作業 → 小破修繕 → 工事
- ・転落防止等 事故防止に向けた掲示物 生徒会委員会の取り組み

(6) 交通事故

- ・通勤時、出張時 → 時間に余裕をもって。遅れるときは電話一本！